



地下資源開發に國力を傾倒せよ

ラサ工業株式會社

取締役會長 小野義夫

戰後最大の國民的課題は生産回復であつた。従つてそれに向つて國民的努力が集中された結果、可成の生産回復が達成された事は御同慶に堪えない所である。然しながら仔細に其等回復の實体を検討するに、そこには種々の内部的脆弱性が潜在している事を指摘出来る。

即ちその最大なるものは、回復が極めて跛行的である事、之を端的に云えば基礎資源産業部門の回復が相當立遅れていて生産均衡が失われていると云う事である。

そも、近代の産業構成から云つて基礎資源部門の振興なくして全般的經濟繁榮があり得るかどうか、此の點今更論議の余地のない所であると思ふが、念のため最近な引例を試みると縁日の植木屋が適例ではあるまいか。即ち縁日で賣つている植木は枝振りは良く、葉は繁り、花さえ付けているのであるが、運搬の便宜のため、肝腎の根をちぎめてあるので之を庭に移植しても絶対に育つものではない。

此の縁日植木屋の低劣さを笑う人は多い。然し近年の我國産業政策、特に鑛業政策については之に類する事が多いと思ふ。

過去の事は取えて云うまい。然し來年度豫算案について之を見ても、鑛業振興に關する政治的努力を示すものは絶無ではないが僅少云うに足りないものである。

鑛業生産回復が大巾に立遅れを示して居り爾余の基礎産業部門の回復遅延と相俟つて、生産回復の脆弱點を構成している際に不拘、此の様な政治的無感覺が平然と露呈されているのを看過して良いものであらうか。

元來鑛産物自体金、銀、銅、鉛、亜鉛、其の他何たるかを問わず國際的需年度の最も高い商品であり、従つて貿易振興焦眉の際に於て、その對外輸出は日本再建に大いに寄與する所があるに不拘、その價格を國際價格以下に釘付して生産を抑制する如きその意圖の那邊にあるや、我々の諒解に苦しむ所である。

而してこのような愚劣な政策が續行される限り、日本鑛業界が衰微の一路を辿ることは自明の理であり、一度休閉した曉には、その生産再開の困難なこと、他産業に比を見ない業種たることを知るや知らずや。

今や我々は卒直に我々業界人の總意を表明しなければならぬ。政府は地下資源の開發に全力を傾倒すべきである。日本經濟再建の基底を固めるために。

日本鑛業協會誌 (第三卷第二號)

二月號目次

(卷頭言)

☆地下資源開發に國力を傾倒せよ

小野義夫……三

☆最近のアメリカ鑛業の情勢

ロバート・Y・グラント……四

☆新鑛業法案の概要……梶原

茂……二〇

☆統計に現れたマンガン鑛業の特殊性

加納寛治……二五

(スポット)

▽鑛山業の設備資金……二四

☆内外の動き

▽懸案中の米國の鑛山助成金法……一九

▽保案委員會の運営……二〇

▽電線の輸出促進に關する陳情……二〇

▽産業合理化審議會の設置……二二

☆日本鑛業界とウラニウム……三三

☆鑛山部門に於ける標準化活動

吉村浩……二四

☆細倉鑛業所の石油消費管理

實施に就いて……二七

▽ニュース……三三

▽資料……三四